



# 笠原小の教育

〒437-1311 静岡県袋井市山崎4822番地 TEL (0538) 23 - 4004

FAX (0538) 23 - 4000



学校HP(URL: <http://kasahara-e.fukuroi.ed.jp>) e-mail: [kasahara-s@orange.ocn.ne.jp](mailto:kasahara-s@orange.ocn.ne.jp)

## I 学区の概要

J R袋井駅から南へ約7kmの地点にあり、学区の笠原地区は、浅羽学園内に位置し、岡崎と山崎の9自治会で構成されている。

この地区は、コミュニティーセンター・健康プラザ・児童館・岡崎会館・こども園・老人福祉センター等の文教福祉施設に恵まれている。また、大畑遺跡や岡崎城趾、龍巢院など歴史的な文化財も多い。学区の北東部では主産業の茶・みかん栽培が、南西部の平地では稲作が行われ、緑豊かな自然環境に恵まれている。

さらに2019ラグビーワールドカップが行われた小笠山総合運動公園(エコパ)が近くに位置している。

## II 児童の実態

【よさ】○「さん」づけ

○明るく素直

○外で元気に遊ぶ

○読書好き

○和太鼓(有志)

【課題】△自分らしさを発揮

△基礎学力

△基本的生活習慣

## III 児童数 (令和4年5月1日現在)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	スマイル1	スマイル2		合計
男子	11	11	11	12	19	16	2	3		85
女子	12	15	6	10	10	7	2	2		64
合計	23	26	17	22	29	23	4	5		149
家庭数	13	11	7	14	27	22	3	4		101

## IV 沿革

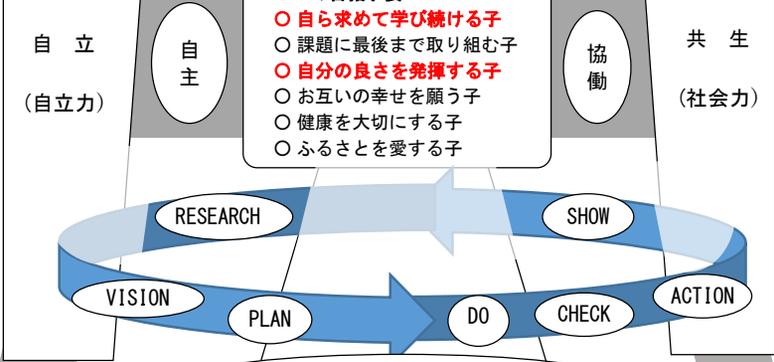
明治6年創立	児童数	岡崎学校・西大淵小学校分校として岡崎村宗有寺内に設置 三輪学校・西大淵小学校分校として山崎村三輪永徳寺内に設置	平成12年 平成13年	163 153	プール移転・改築 山崎賞受賞、防火用100トン槽設置 給食室改修 はごろも賞受賞
明治9年		両校合併 岡崎に初級生の為の分校	平成14年	148	ピオトープ完成、笠小ランド遊具撤去、W杯サッカー
明治14年		山崎・岡崎両村で山崎学校を永徳寺西側に設立	平成15年	143	ドイツ応援給食市長来校、全国野生生物保護実績発表
明治16年		山崎学校を本校として寄木に分校を設立(初等・中等・高等科8年制)岡崎村分離し、宗有寺に岡崎学校仮設。再び岡崎学校と山崎学校に分離	平成16年 平成17年	151 144	大会「文部科学大臣奨励賞」受賞(環境省) 袋井市教育委員会指定研究発表会開催 和太鼓演奏活動で袋井市地域文化活動、奨励賞受賞、エネルギー教育実践校指定(3年)
明治19年 (開校記念日7月17日)		両校合併。鼓瀧小学校と称し、寄木村に分校を置く。後に山崎尋常小学校と仮称(尋常小学校4か年制)	平成18年	137	県を代表し「エコセッション」で発表
明治22年		岡崎・山崎両村合併し、笠原村誕生 笠原小学校誕生(尋常小学校4か年制)	平成19年 平成20年	144 138	上水道に切替、放課後児童クラブ開設 袋井市環境教育モデル校指定 市花いっぱいコンクール3年連続最優秀賞受賞
明治34年		笠原尋常小学校となる(尋常小学校4か年制 高等2か年制)	平成21年	147	「エコライフ」ではごろも賞受賞
明治41年		北から第一校舎増築。同校舎落成	平成22年	146	メロープラザ落成式で和太鼓演奏
大正4年		北から第三校舎増築	平成23年	149	風見の丘落成式で和太鼓演奏、和太鼓10周年記念交流
昭和10年		校歌制定	平成24年	147	全国育樹祭で和太鼓演奏
昭和12年		第四校舎落成及び運動場拡張	平成25年	148	開校140周年
昭和20年	648		平成26年	146	釜石市立唐丹小学校との交流4年目
昭和31年	515	笠原村解村、袋井町と合併、磐田郡袋井町立笠原小学校と校名変更	平成27年	139	P T A 資源回収の開始
昭和33年	563	市制施行により袋井市立笠原小学校と校名変更	平成28年	133	学校運営協議会開始
昭和35年	505	地域の協力を得てプール完成	平成29年	127	笠原合併60周年記念式典で和太鼓演奏
昭和41年		中学校から山林3町7反5歩を委譲山崎字三沢国有林5914番	平成30年	131	飼育小屋撤去
昭和46年	266	地の1 (昭和26.3.31~66.2の40年契約)	令和元年	143	全教室エアコン設置 新型コナカイロ感染症予防措置(3月4日~3月19日臨時休業) 卒業式中止
昭和47年		3・4棟(明治34年建築)撤去、筋RC3階建新校舎竣工(第1期、普通教室13)	令和2年	145	新型コナカイロ感染症拡大防止措置(4月14日~5月10日臨時休業) 和太鼓放課後子ども教室へ移管(4・5年生14名希望者) 浅羽学園(保幼こ小中一貫教育)スタート
昭和49年	264	正門道路及び校門完成	令和3年	145	東京五輪聖火リレー6年生参加 タブレット全児童配付
昭和54年	277	開校百年記念鼓瀧祭挙行	令和4年	148	体育館改修工事
昭和56年	279	鉄筋RC3階建新校舎竣工(第2期、特別教室他)	令和5年	149	開講150周年
昭和58年	298	屋内運動場完成			
昭和59年	305	学校給食文部大臣賞受賞 正門移転新築			
平成5年	232	図書室新築			

静岡県教育基本目標  
「有徳の人」

袋井市教育理念  
「心ゆたかなづくり」

浅羽学園教育目標  
～ 未来を拓く 浅羽の人づくり ～  
「こころざしをもち、共にによりよく生き抜くたくましい子」の育成

袋井市幼少中一貫が目指す子供像  
「夢を抱き、たくましく次の一歩を踏み出す15歳」



「任せて認める」指導

- ・人との触れ合いの楽しさを感じさせる
- ・学力をつける

浅羽学園 運営指針(%)は小5～中3合計)

- ・学校が楽しい …55%
- ・みんなで何かするのは楽しい …65%
- ・授業に主体的に取り組んでいる …45%
- ・授業がよく分かる …40%

魅力ある学園づくり

○自己有用感の醸成 (「居場所づくり」「絆づくり」)

○かかわり合い(学び合い)から「わかる」「できる」「楽しい」を実感する授業や活動の充実

・浅羽学園教科外カリキュラム

	前期 (年少・年中・年長)	中前期 (小学1・2・3年)	中後期 (小学4・5・6年)	後期 (中学1・2・3年)			
	よりよい自分						
生活指導	生活に必要な行動をしている	相手を意識した言動をしている	時と場にあった言動をしている	先を見通した適切な言動をしている			
	自ら学び続ける子						
学習指導	試したり、考えたりして楽しく遊んでいる	興味・関心をもち、進んで学んでいる	自分の考えをもち、課題解決を通して、学びを深めている	見通しをもって、粘り強く学習を進めている			
	他者とのかかわり						
特別活動	自分のしたいことや思いを出そうとしている	自分のしたいことや思いを言葉でつたえようとしている	自分の思いをもって、考えて行動している	自分だけでなく、他者の考えも含めて行動している	人のためになる喜びを感じている	集団のために、自分で選択し、行動している	よりよい集団づくりのために、互いに信頼し合い、それぞれの良さを発揮している
	健やかな体づくり						
健康安全	体や健康に関心をもち、元気に生活をしている	健やかな体をつくるために、何が必要かわかり、生活に取り入れている	健やかな体をつくるために、何が必要かわかり、自らの生活を振り返り改善している	健やかな体に成長した自分をイメージし、そのために必要なことを選択して実践している			

・浅羽学園教科等カリキュラム



笠原小学校 重点目標 「学び合い 認め合い 挑戦する笠原っ子」

学校経営目標 「一人一人が輝く学校」づくり



「自ら求め、学びを楽しむ子」

◎関わり合える学力の育成

- 基礎・基本の定着
- 考えを深めるための「対話・議論の場」の設定
- 読書の質の向上

【指標】

- 「自分の考えを進んで伝える」(60%)
- 「本を読む楽しさが分かる」(60%)

「なりたい自分に近づく子」

◎自己有用感の育成

- なりたい自分の明確化と振り返り
- 行動を認め、励ますボイスシャワー(子ども同士で認め合う場の拡充)
- 認め合いの言葉掛け「ありがとう」

【指標】

- 「なりたい自分に近づいた」(70%)
- 「自分から『ありがとう』が言えた」(70%)

ユニバーサルデザインの考え方に基づいた環境づくり  
鼓濤教育

○学校運営協議会を機能させる学校経営 ○人権教育の充実 ○さまざまな機関との連携・相談体制の充実

○ベテラン教員による若手・ミドルリーダーの育成  
○個人目標とフィードバック面談

【チーム笠原】  
「地域総がかりで子どもを育てる」

- 地域への情報発信の充実 (HP・コドモン)
- 地域の資源を活用したカリキュラムマネジメント

○SSS活用による業務削減  
○勤務実態管理による意識改革  
○メンタルヘルス・不祥事根絶の取組

## VI 令和5年度 浅羽学園笠原小学校 学校経営構想

### 1 基本理念

#### (1) 子ども起点の教育

近年、社会の在り方が、少子高齢化、グローバル化、情報化等々、劇的に変化・進展する一方で、先行きが不透明で「予測困難な時代」になってきている。学校においては、コロナウイルス感染症に備えた新しい生活様式に留意しながら、いじめ・不登校・児童虐待・学力格差・危機管理等の諸課題への対応が求められている。

学校現場においては、ウイズコロナへの緩やかな流れの中、一人一台の学習用端末の活用が進み、学習形態や授業の流れが工夫されるなど、子どもたちの学習についても大きな変化が起こっている。そのような中、中央教育審議会答申『令和の日本型教育』の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～が示された。この中では、子どもたちが多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力を育むことが必要とされた。そして、2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型教育」の姿として「個別最適な学び」と「協働的な学び」それぞれの学びを一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることが求められた。

これらのためには、「指導の個別化」、「学習の個性化」といった個に応じた指導と、一人一人のよい点や可能性を生かし、異なる考え方を組み合わせてよりよい学びを生み出す指導とが必要である。これらの指導を通して、子ども一人一人の「今」と「将来」の幸せを願い、それぞれの思いや願いに寄り添いながら安心して学ぶ場をつくること、それが「子ども起点の教育」であると考え

#### (2) 地域総がかりで子どもを育てる

子どもたち一人一人が自分らしく成長していくためには、校種を越えた一貫教育と地域との連携教育を推進し、地域総がかりによる支援体制を構築していくことが大切である。

幼児教育3年間、義務教育9年間を見通した教育課程を編成し、ゴールとしての子どもの姿を全職員が共有することで、一貫教育はより確かなものとなる。また、地域社会における様々な人や事象との出会いも重要である。子どもたちの成長を願い、陰になり日向になって支えてくれる家庭や地域との密接な関係を保持しながら教育活動を展開していきたい。

そのために、これまで推進してきた浅羽学園幼小中一貫教育と本校の伝統である鼓濤教育を実践・発展させていく。

### 2 浅羽学園経営構想

#### (1) 浅羽学園教育目標

「こころざしをもち、共によりよく生き抜くたくましい子」の育成

#### (2) 15歳の姿について

- ・主体的に考え判断し、学習や諸活動に取り組む
- ・自分に自信をもち、自他を大切に協働できる



◎たくましく、しなやかに生き抜くためのレジリエンスを身に付けさせる

#### (3) 学園教育目標＝学校教育目標」とし、グランドデザインを共有する

- ・15歳の姿を学園で共有し、系統的かつ効果的に子どもの力を育成する。
- ・令和4年度の実践から得た具体的事例を学園全体で共有し、「任せて認める」指導の実践を進める。

### 「任せて認める」

- ・どこで、どう「認める」か、見通しをもって「任せる」。
- ・任せた限りは認めることをする。
- ・「任せる」ことをどの範囲で考えるかが、ポイントとなる。全職員で考え、共有する。
- ・成果承認だけでなく、プロセスを重視し、意欲承認、行動承認が重要である。

- ・各校の特色を活かすために、各校で重点目標を設定して学校運営を推進する。

### (4) 浅羽学園の6つの目指す姿から次の2点を焦点化して取り組む

- ・「自ら求めて学び続ける子」…こころざしをもち、主体的に取り組む姿
- ・「自分の良さを発揮する子」…自己の力を発揮して、共によりよく協働する姿

### (5) 「魅力ある学園・学校づくり」を取組の基軸とする

- ・各園、校でPDCAサイクルにより「魅力ある学園・学校づくり」を推進し、新規不登校者を増やさない。
- ・「居場所づくり」「絆づくり」により自己有用感と規範意識の醸成を図る。

#### 「絆づくり」

教師や友人との関わり合いの中で、協働的な学びと諸活動の楽しさを体験することによって、社会性と主体性を育てる活動

#### 「居場所づくり」

「自分は大切にされている」「認められている」といった実感を持ち、個性を発揮できる環境を整えるとともに、精神的に安定できる居場所をつくる取組

#### 運営指針

- ◆学校が楽しい ◆みんなで何かするのは楽しい ◆授業に主体的に取り組んでいる
- ◆授業がよく分かる
- ・関わり合い(学び合い)から「わかる」「できる」「楽しい」を実感する授業や活動の充実を図る。
- ・意欲承認や行動承認など、プロセスを重視する「任せて認める」指導を進める。

### (6) 幼保こと小、小と中との理解と連携強化を推進・深化させる

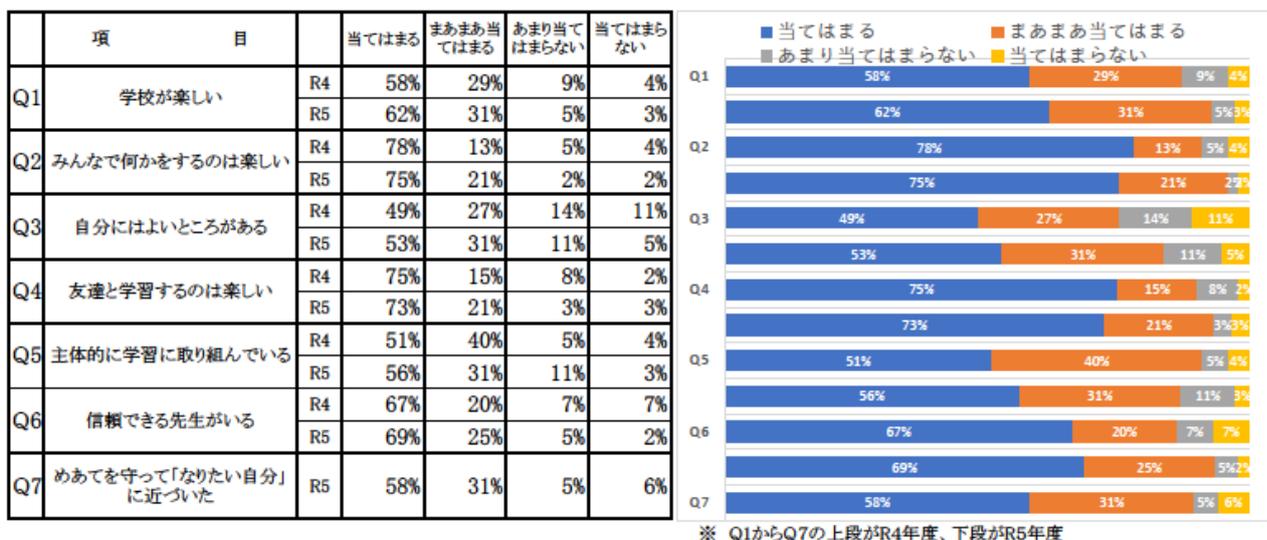
- ・園、校の活動や学びを参観し合うことで、一貫教育の理解と一体感を高める。
- ・架け橋期のなめらかな接続については、これまでの取組を継続するとともに質の改善を図る。
- ・研修会等における学年会を機能させ、横の連携を推進し、園児・児童の交流活動を実施する。
- ・園、校で情報共有を確実に行うとともに、特別な支援が必要な児童生徒への指導の充実を図る。

### (7) 家庭・地域へ積極的に情報発信を行う

- ・各園、校の取組を積極的に家庭に伝え、保護者と一緒に子供の成長(主体性・規範意識・思考力)を支援する。
- ・「浅羽学園のひとづくり」を新入園児保護者へ配布し、地域、保護者と一緒になった人づくりを進めていく。

### 3 本校の実態

#### <学校評価結果(2学期 児童)>



#### <Q-U(楽しい学校生活を送るためのアンケート)の結果(学校全体で見た場合の%)>

タイプ 年度	学校生活満足群		非承認群		侵害行為認知群		学校生活不満足群		要支援群	
	5月	11月	5月	11月	5月	11月	5月	11月	5月	11月
2020	55	60	16	18	14	10	13	9	2	2
2021	38	43	24	18	14	10	19	29	5	6
2022	45	51	17	13	22	14	17	22	1	4

#### <教師の見取り(第1回教育課程編成会議より)>

- 素直で真面目
- 目標に向かって皆で取り組むことができる
- 目を見て話が聞ける
- 学年を超えた仲の良さがある
- 穏やかな児童が多い
- 地域に愛着がある
- 目的意識を持って行動できる
- 高学年が手本になろうとしている
- クラス内の位置が固定されている
- 新しい環境や意見、人とのかかわりなどに臆病な面がある
- 自分の良さに気づいていない
- 打たれ弱い
- 自己肯定感が低い
- もまれていない
- 言動が粗暴な面が見られる
- 失敗を恐れる

学校評価Q1、Q2、Q4の結果から、学校生活を楽しみ、集団で学習したり活動したりすることに意欲的に取り組んでいる子どもが多いことが分かる。また、Q7から、教職員が子どもたちの安定した学校生活の支えとなっていることが分かる。その反面、Q3において、肯定的な回答をする子どもは増加しているが、「当てはまる」と回答した児童が半数に過ぎず、Q8の質問に自信をもって答えることのできた児童も約60%程度である。これらのことから、本校の子どもたちが自己肯定感・自己有用感を十分にもつことができていないことがうかがわれる。また、Q5からは学習が自分ごとではなく、受け身になっている傾向もみられる。

Q-Uの結果からは、学校生活満足群が増加し、非承認群、侵害行為認知群が減少しており、本年度の学級集団作りが子どもたちの居場所づくりにつながったと考えられる。しかし、令和3年度との比較でみると、学校生活不満足群、要支援群が増加しており、コロナ禍の影響を含め、その原因を考え、対処していく必要がある。

教師の見取りからは、少人数の中で丁寧に見取られてきたことによる素直さなどに加え、一人一人の思いを大切にされた指導の成果として、目的意識を持った行動や高学年のリーダーシップなどが育ってきていると考えられる。その反面、マイナス面として、人間関係の固定化や自己肯定感の低さが課題として挙げられている。これらは、子どもたちのレジリエンスの低さが原因の一つであると思われ、中学校における不登校へもつながっていくと考えられる。

## 4 目指す学校

### (1) 校訓

強い子 明るい子 考える子

### (2) 教育重点目標

学び合い 認め合い 挑戦する笠原っ子

### (3) 学校経営方針

「一人一人が輝く学校」づくり

令和4年度、「一人一人が輝く学校」づくりを学校経営目標とし、「学びを深め、楽しむ子」「なりたい自分に近づく子」を目指してきた。見通しをもった単元計画や児童の主体性を高める課題設定の工夫、「なりたい自分」の明確化と振り返り、子ども同士で認め合う場の設定などに取り組み、大きな成果を得ることができた。しかし、学校評価やQ-Uなどの結果を見ると、今後は、学びの楽しさを実感し、主体的に取り組もうとする姿、自らに自信を持ち、積極的に他と関わろうとする姿を求めていきたい。

そこで、令和5年度も引き続き『一人一人が輝く学校』づくりを学校経営の基本理念として進めたい。

「一人一人」・・・子どもたちはもとより、学校職員や保護者・地域住民など、本校に関わる全ての人たち

「輝く」・・・自己有用感に支えられた中で、個性を伸ばし、自己の可能性を広げ、充足感を得ること

これを実現するためには、教職員と子どもたちが共に一人一人を認め、大切にしていくこと、様々な関わり合いの中で協働していくことが必要である。このことは、浅羽学園一貫教育の基軸である「魅力ある学校づくり」における、「任せて認める」に直接つながるものである。また、「個別最適な学びと協働的な学び」とも重なる。また、子どもたちの実態、保護者・地域の願い、そして我々職員の思いを大切にするとともに、開かれた教育課程により地域の人々とも協働していくことで、本校にかかわる全ての人々が輝き、成長していくことのできる学校づくりを進めていきたい。

### (4) 具現化のための実践事項

#### ① 自分ごととして学ぶために必要な意欲と能力を育む授業の実践【学び合い】

ア 主体的に学ぶ力が育つ授業

・価値ある課題の設定 ・笠小ルーブリックの提示 ・navima の活用

イ 協働的に学ぶ力が育つ授業

・対話・議論の場の設定 ・ICT機器の活用 ・体験的な学習の充実

ウ 考える力が育つ授業

・「まとめ」と「振り返り」の充実 ・思考ツールの活用

#### ② 一人一人を大切に、共に高め合う仲間づくりの実践【認め合い】

ア 個が育つ教育活動

・ボイスシャワー ・キャリアパスポートの活用 ・特別支援教育、人権教育の充実

イ 集団が育つ教育活動

・気持ちの良い挨拶、さん付けの励行 ・異校種交流の充実 ・異年齢交流活動の充実

ウ 感性が育つ教育活動

・読書活動の充実 ・時機に応じた体験活動

### ③ 心身の健康に関心をもち、めあてに向かって自らを高める教育活動の実践【挑戦】

ア 目標に向かって運動する力が育つ教育活動

・外遊びの励行 ・体育科授業の充実 ・運動に親しむ環境づくり

イ 健康への関心が高まる教育活動

・健康の日 ・委員会活動 ・健診結果の活用

## (5) 経営の基盤

### ① 「チーム笠原」

ア 縦断的・横断的な組織運営

学年経営を縦糸、各部の運営を横糸として、個々の職員が縦断的・横断的に学校運営に参画できるようにする。各部は学年団の担任による学年部と、校内分掌に応じた学びづくり部、生活づくり部で構成し、学園教育目標・学校重点目標実現のために具体的な取組を進めていく。部としての役割を果たすとともに、一人一人の職員が個々の個性や能力（自分らしさ）を発揮して自己を伸ばしていけるようにする。

イ 関係機関や専門職との連携

一人一人の子どもたちが、それぞれの教育的ニーズに応じた支援が受けられるようにする。そのために、児童養護施設や児童相談所等の関係機関、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、外国人支援員、スクールガードリーダー等をチームと捉え、効果的な活用・連携を図る。

### ② 人材育成

ア 静岡県教員育成指標、教職員人事評価制度の活用

「静岡県教員育成指標」で示されているキャリアステージにおいて求められている基準を理解し、自己の重点課題を明確にして教職員評価制度の目標設定を行う。期首面談やフードバック面談において定期的に振り返りを行い、個々の実態に即した力量形成につなげる。

イ OJTによる若手・ミドルリーダー育成

勤務経験年数や年齢を考慮した組織編制とし、ベテラン教員のバックアップのもと、日常の学級経営や授業づくり、分掌業務などを通して若手と中堅教職員がともに成長できるようにする。

### ③ 働き方改革の推進

ア 教職員の意識改革

健全なライフワークバランスを保つことができるよう、効率的に業務を行う意識を持つ。従事内容の優先順位を適切に判断したり、処理方法を効率化したりする。生み出した時間によって児童と向き合う時間を確保するとともに、自己の生活を充実させるように努める。

イ 業務改善

「やめる」「へらす」「かえる」を常に意識し、業務の改善を図る。校務支援ソフト、ミライム等を活用した文書のペーパーレス化等を推進する。会議時間は1時間を徹底する。そのために、ねらいや協議内容を明確にして参画する。

ウ 人材活用による校務の効率化

スクールサポートスタッフ、コミュニティスクールディレクター、支援員等を有効活用し、校務の効率化を図ることで時間を生み出す。

#### ④ 安心安全な学校づくり

##### ア 学校危機への対応

いじめや人権侵害などについては、アンケートやQ-Uを有効活用を有効活用し、早期発見・早期解決に心掛け、組織的に対応していく。子どもたちの不安や心配事に対しては「いつでも・どこでも・だれでも」対応することを基本とし、相談内容については生徒指導主任を中心として全職員で共有していく。また、地震や火災、食物アレルギーなどに迅速に対応できるよう、避難訓練を定期的に行うとともに、災害・危機対応マニュアルを充実させ、すべての職員が内容について理解していく。感染症については、学園内や教育委員会、学校医と連絡を密に取り、適切に対応していく。

##### イ 不祥事根絶

全ての職員が、教育職員としての自覚を持ち、自己研鑽への意欲を持つ。また、「3ゼロ+2」を軸とした不祥事根絶を常に意識化できるよう、職員会議や打合せなどにおいて定期的に研修する機会を設ける。さらに、日常的な会話や管理職への相談から、職員一人一人の悩みや状況が把握できる雰囲気づくりをする。そのために、「理想とする教職員の姿」を共有し、互いに声を掛け合うことのできる、風通しのよい職場環境を目指す。

##### 【理想とする教職員の姿 三か条】

- 一 子どもを信じて励まし続ける教師になります。
- 一 対話を大切にし、弱音を吐け、受け止められる仲間になります。
- 一 相手と自分のよさに気づき、互いの強みでカバーし合う職員集団になります。

また、学校生活の様子や授業中の姿など、教職員が子どもたちと共に頑張っている姿を学校だよりやホームページなどを通して積極的に発信していくことを通して、保護者・地域からの学校への信頼を高めていく。

#### ⑤ 地域とともにある学校

##### ア 鼓濤教育の推進

本年度に迎える創立150周年をチャンスととらえ、「一人一人が輝く学校」づくりを学校、家庭、地域の協働により実現していく。そのために、学校運営協議会を学園・学校経営方針を周知し、学校運営に関する意見を吸い上げる場として機能させる。また、まきばの家や岡崎会館、地域の学習人材等との連携を深め、「地域総がかりで子どもを育てる」の理念の実現を目指す。

##### イ 双方向での情報共有

学校ホームページやメール、各種便りを通して子どもたちの輝く姿をタイムリーに発信するとともに、懇談会や連絡ノート、教育相談などを通して保護者からの意見を吸い上げ、教育相談などの場を積極的に設定する。

## VII 令和5年度 教育課程

### 1 教育課程編成の基本方針

令和3年度より、浅羽学園教育目標である「こころざしをもち、共によりよく生き抜くたくましい子」の育成を学校教育目標とし、重点目標を「学び合い 認め合い 挑戦する笠原っ子」としてきた。この学校教育目標ならびに重点目標の達成のために、知・徳・体のバランスのとれた教育活動を推進し、自己有用感の醸成や関わり合いから「わかる」「できる」「楽しい」を実感する授業を推進する。

### 2 教育課程編成の重点

#### (1) 学びづくり部「自ら求め、学びを楽しむ子」

「主体的・対話的で深い学び」で必要とされる力を、他者や自己と関わり合う中で課題と向き合う力と捉え、その育成を目指す。そのために基礎・基本の定着を図り、学習の土台を強固にする。そして「指導の個別化」「学習の個性化」といった個に応じた指導と一人一人のよい点や可能性を生かし、多様な見方や考え方を組み合わせて思考する対話が生まれる授業づくりに努める。校内研修を充実させるとともに、ICT機器やループリックの提示など、継続した取り組みを深化、発展させて授業改善を進める。また、読み聞かせや読書月間によって読書の質を高めることで、本を読む楽しさが実感できるようにし、読書習慣の充実化と習慣化を図る。

#### (2) 生活づくり部「なりたい自分に近づく子」

児童の「なりたい自分」を言葉で明確化することによって意識付けし、月や学期ごとに振り返りを行う。教師は、児童の行動を認め、励ますボイスシャワーを掛けると共に、児童相互でも認め合う場を拡充することをねらう。そのために、認め合いの言葉として「ありがとう」をキーワードとし、特別活動を中心に互いに感謝の思いがもてる環境づくりや価値付けに努める。これによって自己有用感が育成され、児童の自主性が高まることを期待する。また、健康の日や健康推進活動を発達段階に応じて行い、一人一人の児童の心身の成長と充実を図る。

#### (3) 鼓濤教育の推進

人権教育や特別支援教育の研修会を実施し、教職員全体の人権意識の高揚に努める。また、児童養護施設「まきばの家」との連絡、情報共有を密に行い、互いの理解を深める。さまざまな機関と連携し、相談体制の充実を図る。

### 3 日課・週課における工夫

(1) 学びづくりでねらう基礎基本の定着を図るため、月・水・金の朝の15分間を「学びのステージ」として設定し、児童の学びを支えるものへ取り組む。学年の発達段階に応じて、MIMによる音節指導や国語との関連読書、四則計算の練習、話型の体験など、国語科、算数科の内容に親しみ、取り組めるように各学年で計画的に行う。

(2) 月曜日の昼休みに会礼、全校清掃を実施する。会礼は参集型に重きを置きつつ、感染症等の状況に合わせてリモート等の対応も行う。

- (3) 学年単位で取り組む「わくわくタイム」は、火・木曜日の昼休み後の15分間で行う。異学年交流「なかよし活動」や学級活動、委員会活動などと同様に、児童の「したい」という思いを大切にし、主体性を育む時間として使うことをねらいとする。そのため、あらかじめ教師が計画をするのではなく、児童の実態や主体性によって流動的に活用する。低学年は、同時間を外国語活動にも充てるため、1年生の全学期、2年生の1学期にあっては、月・金曜日の下校前15分間も「わくわくタイム」として設定し、主体性を育む時間の拡充を図る。
- (4) 1年生は、4月2週目～5月1週目まで、スタートカリキュラムを実施する。幼児期からの学びを生かす活動や環境を意図的に設定することで、1年生が自信や意欲をもって小学校での生活をスタートできるようにする。
- (5) 夏季休業後も気温が高く熱中症が心配されるため、8月～9月の第2週までを特別日課とする。屋外で活動できないと予想される日中の時間を下校時刻の繰り上げに充て、家庭で体調管理や十分な休息を取る時間がとれるように努める。
- (6) 月曜日の放課後を学び・生活づくり部会とし、部長を中心に部の目標を達成するため、各分掌を横断的に接続できるようにする。また、火曜日を学年部会とする。単学級であり、担任のみの判断で学年経営を進めることへの不安を解消し、学習の進捗や学年経営の悩み、校外活動や人材活用の見通しなどを共有し、問題解決に当たることとする。浅羽学園合同学年会も状況に合わせて参集型やリモートで開催し、他の学校との情報交換や交流を行う。
- (7) 職員打合せは、児童の安全確保のため、水曜日の完全下校後に行う。ミライムの掲示板やメッセージ、職員サーバーを活用することで、職員間の情報共有を確実にし、時間と資源の削減を図る。

#### 4 教育課程実施上の具体的配慮事項

- (1) 横（家庭・地域・諸機関）や縦（浅羽学園各園・校）との連携を意識し、学びがスムーズに続くような教育の展開に配慮する。浅羽学園内の園小中学校を参観し、合同研修会での交流をもとに、幼小中一貫教育を意識して教育活動を行う。
- (2) 地域の人・もの・こととの豊かな関わりを通して、実感を伴う体験活動を行う。そのためにCSD（コミュニティスクールディレクター）との連携を図り、地域の人材の活用を積極的に検討する。
- (3) 「学校評価アンケート」（未来を拓く）を行い、その結果をもとに、教育課程編成会議で教育活動を見直し、検討する。PDCAサイクルを充実させ、学校教育目標の実現に向けた教育課程の実践を目指して改善を図る。

学校教育目標「こころざしをもち、共によりよく生き抜くたくましい子」の育成

重点目標

学び合い 認め合い 挑戦する笠原っ子

<学びづくり>

目指す子ども像

<生活づくり>

自ら求め、学びを楽しむ子

なりたい自分に近づく子

研究主題

「学びを深め、学びを楽しむ子」の育成

～思考力を高めるための課題設定の工夫～

メタ認知による学びの実感と、学びの足跡を正しく見取るための計画的な学習評価

子どもが自ら取り組みたくなるような課題設定

単元全体を計画し、教師・児童の双方が見通しをもって進める授業

研究の視点

- ①単元全体を計画し、教師・児童が見通しをもって取り組む授業
- ②子どもが自ら考えたくなるような課題設定
- ③計画的な学習評価や、メタ認知的な振り返りによる児童の見取り

単元計画

思考力を高めるための見通しをもった単元計画と課題設定

より思考に重きを置いた『笠原小ループリック』の設定

単元プランシートの活用と更新

思考を可視化するための手立ての工夫

新学習指導要領への対応

基礎学力の向上

- 「学習のきまり」の徹底
  - ・授業参加態度
  - ・話の聴き方、発表の仕方
- 基礎基本学力の定着
  - ・家庭学習の充実
  - ・学びのステージの実施

豊かな体験

- 感動（達成感、成就感）体験
  - ・行事、特別活動
  - ・総合的な学習の時間（笠原学習）
- 表現する場や方法の工夫
  - ・日常の場（朝や帰りの会）
  - ・行事や集会

人権教育

人と関わる取組による認め、励まし合う心の育成

地域とともにある学校づくり

地域人材との連携

学習ボランティア、ゲストティーチャー、放課後こども教室等

教師の指導力向上

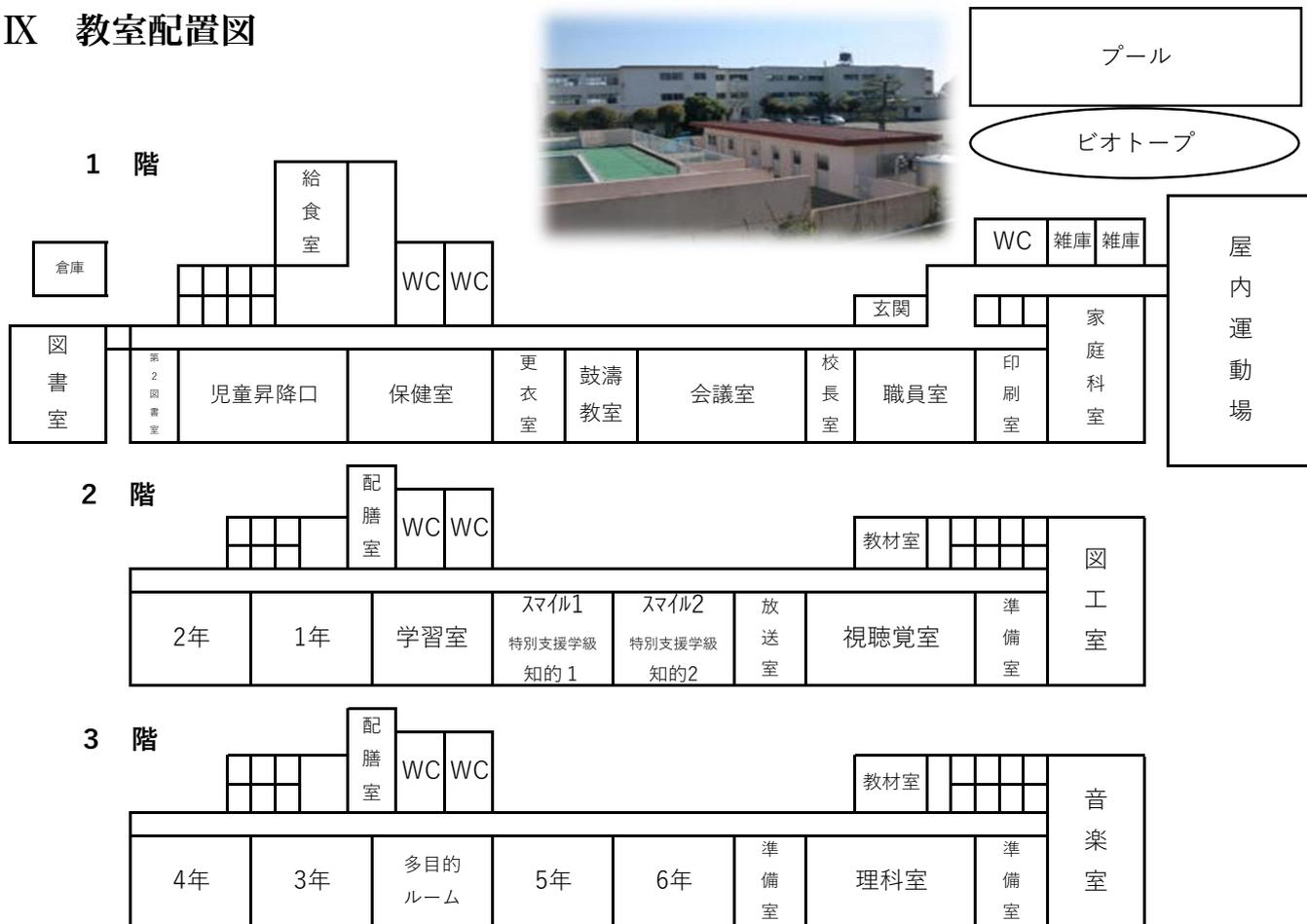
- ・研修会への参加
- ・学年団部による研修
- ・チーム笠原としての取り組み

保幼こ小中一貫教育  
(浅羽学園)

家庭との連携

- ・主体的に取り組む家庭学習
- ・家庭学習の手引きの活用

## IX 教室配置図



## X 職員構成 (令和5年5月1日現在)

職員名	氏名	職名等	氏名	職名等	氏名	職名等	氏名
校長	岩田雅彦	1年担任	牧野侑子	教諭	和田ひとみ	非常勤職員	神谷とよ子
教頭	小川正恭	2年担任	鮫島由輝	養護教諭	水野智香子	市支援員	山本直江
教務主任	神谷武志	3年担任	土屋波香	事務主任	秋元亜衣	市支援員	岡本富恵
スマイル1担任	重松保紀	4年担任	磯野一樹	市事務	高川めぐみ	市支援員	岡本加余子
スマイル2担任	前嶋弥生	5年担任	齋藤禎也	校務員	山下茂	スクールサポートスタッフ	村松敦子
教諭	久野かおり	6年担任	小笠原康晃	非常勤職員	鳥居由美子		

## XI 勤務環境改善 (勤務時間を意識した働き方を推進・時間外勤務月45時間以内)

- ・教育課程等の見直し (学校行事の精選・廃止、勤務時間内の会議終了、SSS等の人材活用)
- ・校内LANの活用によるデータの共有化 (印刷時間の削減、ペーパーレス会議の実施)
- ・教職員の意識改革 (退勤時間申告による業務時間管理の推進、週1回の「ノー残業デー」の設定、年休等休暇取得奨励)

笠原小学校校歌

宇波耕作 詞  
中島静 曲

緑なす野山 うるわしく  
天地の恵み ここに豊かなり  
のぞみに満ち 若き力にあふれ  
この笠原に 生い立つうれしき

可美が丘ながめ はるばると  
自ら心直く 意気あがる  
礼儀正しく 共に親しみ合いて  
日毎に学ぶ 我等の喜び

鼓濤の名ひろく 聞こえたり  
この誉いよいよ 高く掲ぐべく  
御国のため 努め励みていざや  
まことの道を 雄々しく進まん